

1. 企画情報部

1 機関評価委員会及び調査研究企画・評価委員会の開催

平成28年8月3日（水）に中期運営計画（H23～H27、五カ年計画）及び年度実施計画の取組状況や目標の達成度についての評価を受けるため機関評価委員会を、また当研究所が行う調査研究事業についての評価を受けるため調査研究企画・評価委員会を開催した。

機関評価委員会は、厚生総務課と衛生研究所が推薦する専門委員7名（地域保健・公衆衛生分野の専門家・有識者5名及び内部委員2名）と科学技術振興課が推薦する共通委員2名の計9名により構成される。調査研究企画・評価委員会は、機関評価委員から共通委員を除いた計7名により構成される。

(1) 機関評価委員会

ア 評価対象

i) 県民に対して提供する業務

調査研究，試験検査，研修指導，公衆衛生情報等の収集・解析・提供

ii) 業務の質的向上，効率化のために実施する方策

全体マネジメント，他機関との連携，内部人材育成

イ 評価基準

評価については、達成度と難易度を考慮して判断を行う。難易度はH（高）・M（中）・L（低）の3段階、達成度は4段階（AA・A・B・C）の基準を用い、これらを勘案した上で、下表を参考に判断する。総合評価は、各委員からの評価レベルの差を反映させるため、4段階評価の基準を細分化し、1つでも上の評価があれば+（プラス）、1つでも下の評価があれば-（マイナス）と判定される。

難易度	達成度			
	AA	A	B	C
H	AA	AA	A	C
M	AA	A	B	C
L	A	B	C	C

ウ 平成27年度評価結果

総合評価：A 試験研究機関に期待される役割や目標等に照らし合わせて、質・量の両面において着実に取組みを実施していると評価された。

エ 中期運営計画（H23～H27）実績評価結果

総合評価：A 試験研究機関に期待される役割や目標等に照らし合わせて、質・量の両面において着実に取組みを実施していると評価された。

(2) 調査研究企画・評価委員会

ア 評価対象研究課題

(ア) 完了報告

平成27年度に完了した研究課題2題

(イ) 事前評価

平成28年度から実施の研究課題 2 題

イ 評価項目

(ア) 完了報告

①調査研究の妥当性 ②目標の達成度 ③成果の意義, 活用性 ④総合評価

(イ) 事前評価

①必要性 ②目的の適合性 ③計画内容等の妥当性 ④目標の達成及び活用の可能性 ⑤総合評価 ⑥計画実施の適否

ウ 評価基準

上記①～⑤の評価項目については 5 段階評価, ⑥については 3 段階評価

エ 研究課題及び評価結果

(ア) 完了報告

- ・カンピロバクター属菌のPFGE法 (パルスフィールドゲル電気泳動法) を用いた疫学に関する調査研究

総合評価 : 4.7

- ・VNTR法を用いた結核菌分子疫学分類確立のための調査研究

総合評価 : 4.7

(イ) 事前評価

- ・茨城県内流通食肉から検出されたサルモネラ属菌の薬剤耐性状況に関する調査研究

総合評価 : 4.7

- ・小児の重症呼吸器感染症に関与するウイルス遺伝子の網羅解析

総合評価 : 4.9

2 地方衛生研究所全国協議会の連絡調整

協議会の会員機関として、15件の調査等（表1）に協力するとともに、会員機関同士の情報交換を行った。

表1 平成28年度地方衛生研究所全国協議会の調査等一覧

調査名	実施機関等
検査機関における検査手数料に関するアンケート	堺市衛生研究所
衛生研究所の事業費及び組織規模等の状況について	埼玉県衛生研究所
倫理審査委員会運営状況等について	横浜市衛生研究所
地方衛生研究所の改修に関する照会	福岡市環境局保健環境研究所
健康被害危機管理事例（概要情報）の継続調査	地方衛生研究所全国協議会学術委員会（岡山県環境保健センター）
HIV 検査に関するアンケート	東京都健康安全研究センター
動物実験の実施状況に関する調査	国立医薬基盤・栄養研究所
衛生微生物技術協議会第38回研究会開催に伴うアンケート調査	衛生微生物技術協議会第38回研究会（国立感染症研究所）
ポストカラムクロマトグラフの保有状況等調査	岩手県環境保健研究センター
法改正に伴うウイルス病原体サーベイランス実施状況調査	埼玉県衛生研究所
感染症情報センター及び健康等情報発信に関するアンケート	京都府保健環境研究所
感染症法に基づく病原体検査体制に関する調査協力	地全協感染症対策部会（愛媛県立衛生環境研究所）
風しんウイルス検査に関するアンケート調査	国立感染症研究所ウイルス第3部
「一類感染症等研究」班の調査への協力依頼	愛媛県立衛生環境研究所
研修ニーズについてのアンケート調査	国立保健医療科学院生活環境研究部

3 水道水測定分析外部精度管理

水道水の測定分析に従事する検査機関の検査精度の信頼性を確保するため、平成28年度は12水質検査機関を対象に、水道法水質基準項目の「マンガン及びその化合物」について「外部精度管理」を実施した。

各機関の測定結果はGrubbs検定を行ったのち、Zスコア、変動係数及び誤差率により評価した。参加機関12機関において、棄却率5%で棄却された機関はなかった。全ての機関においてZスコアの絶対値が3以上の機関はなく良好な結果であった。また、各機関の測定値の誤差率は±10%以内、変動係数は10%以内であり良好な精度であった。

4 ホームページの運営

研究所全体の概要や各部の業務、試験検査・調査研究の紹介及び最新情報を提供するためホームページを開設し平成15年2月から運営している。なお、平成27年3月に茨城県ホームページシステム変更に伴いリニューアルした。

<http://www.pref.ibaraki.jp/soshiki/hokenfukushi/eiken/index.html>

ホームページ管理運営委員会を2ヶ月に1回開催、感染症及び食品に関する公衆衛生情報を27件（表2）掲載した。

また、健康プラザの展示スペースや各種イベントでパネルを掲示した（表3）。

表2 平成28年度ホームページ掲載公衆衛生情報

掲載月	タイトル
5月	腸管出血性大腸菌に注意しましょう おたふくかぜについて 水道水質基準についてー亜硝酸態窒素についてー 感染性胃腸炎（ロタウイルス）
6月	梅毒の報告状況（2016年） 黄熱について 流行性耳下腺炎の流行状況（2016年）
7月	ヘルパンギーナに注意しましょう！！ A型肝炎・E型肝炎が増加しています！！ 夏季に増加する感染症に注意しましょう！～腸管出血性大腸菌感染症～
8月	食肉の試験検査について 蚊媒介感染症にご用心！ 衛生研究所の放射性物質試験検査について レジオネラ症について ダニ媒介感染症について
9月	RSウイルス感染症について 日本脳炎について
11月	冷凍食品（細菌）の検査について ノロウイルス胃腸炎の季節到来！！ 食品添加物の分析について 感染性胃腸炎
12月	ダニ媒介感染症～つつが虫病～ インフルエンザに関する情報
2月	クドア・セブテンpunkタータについて 平成28年度茨城県における感染症流行予測調査について 日本薬局方（にほんやっきょくほう）について 風しんを予防しましょう！～2月4日は「風しんの日」です～

表3 平成28年度パネル掲示公衆衛生情報

掲示月	タイトル	掲示場所等
4月～7月	身近な寄生虫～アニサキス～ 日本脳炎に注意しましょう 家庭用品の安全を守るために ジカウイルス感染症(ジカ熱)に注意!!	健康プラザ
8月～11月	腸管出血性大腸菌の分子疫学解析について 麻しん(はしか)にご用心! 危険ドラッグの取締強化について 梅毒が増えています!!	
12月～3月	レジオネラ属菌の検査について インフルエンザウイルスサーベイランスについて 無承認無許可医薬品の危険性について 水道水測定分析外部精度管理について	
10月 22日・23日	衛生研究所ってどんなところ? 腸管出血性大腸菌について インフルエンザとは 危険ドラッグの取締強化について	いばらきの くすり展
11月20日	茨城県衛生研究所の概要 インフルエンザウイルスの検体採取法について 麻しん(はしか)にご用心! 結核菌の疫学解析 カンピロバクター属菌のPFGE法を用いた疫学に関する試験研究事業 茨城県衛生研究所における病原体検出情報	平成28年度 茨城県医療安全 研修会
11月23日	茨城県衛生研究所の概要 後発医薬品の試験検査	第16回後発医薬品 使用促進セミナー
1月	茨城県における <i>Campylobacter jejuni</i> のPFGE法を用いた分子疫学解析 蚊媒介感染症に係る蚊の生息状況調査 茨城県衛生研究所における感染症サーベイランスシステムの活用 薬局製剤の規格不適事例の検討	県民情報センター 県政広報コーナー

5 感染症情報センター

感染症発生動向調査における週報・月報等の報告還元業務の他、感染症情報収集システム（学校欠席者情報収集システム（保育園サーベイランス含む））の管理並びに情報提供を衛生研究所ホームページ等で行っている。

県内の医療機関から報告された二類～五類感染症（全数把握疾患・定点把握疾患）の報告数を表4および表5に示す。

また、年度末に開催された「平成28年度茨城県感染症対策委員会」及び「平成28年度茨城県麻しん風しん対策会議」の事務局として概要の説明を行った。

表4 平成28年次全数把握疾患

分類	疾病名	報告数
二類	結核	547
三類	腸管出血性大腸菌感染症	53
四類	E型肝炎	13
	A型肝炎	9
	チクングニア熱	1
	つつが虫病	12
	デング熱	4
	日本脳炎	1
	ブルセラ症	1
	マラリア	3
	レジオネラ症	46
	五類	アメーバ赤痢
急性ウイルス性肝炎（E型及びA型を除く）		1
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症		14
急性脳炎		33
クリプトスポリジウム症		1
クロイツフェルト・ヤコブ病		2
劇症型溶血性レンサ球菌感染症		6
後天性免疫不全症候群		14
ジアルジア症		4
侵襲性インフルエンザ菌感染症		8
侵襲性肺炎球菌感染症		35
水痘（入院に限る）		4
梅毒		69
播種性クリプトコックス症		5
破傷風		3
バンコマイシン耐性腸球菌感染症		1
麻しん		1

表5 平成28年次定点把握疾患

定点分類	疾病名	報告数
小児科	RSウイルス感染症	1,558
	咽頭結膜熱	992
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	7,070
	感染性胃腸炎	25,568
	水痘	1,555
	手足口病	1,992
	伝染性紅斑	825
	突発性発しん	1,150
	百日咳	42
	ヘルパンギーナ	2,228
	流行性耳下腺炎	2,781
	眼科	急性出血性結膜炎
流行性角結膜炎		960
基幹	細菌性髄膜炎	3
	無菌性髄膜炎	14
	マイコプラズマ肺炎	450
	クラミジア肺炎	0
	感染性胃腸炎	35
(病原体がロタウイルスであるものに限る。)		
インフルエンザ	インフルエンザ	37,909
(高病原性鳥インフルエンザを除く)		

2. 細菌部

1 試験検査の概況

平成28年度試験検査実施状況を表1及び表2に示した。

(1) 感染症発生動向調査事業

ア 細菌の分離同定検査

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律により三類感染症として届出のあった患者の接触者検診，治療後の患者の病原体を保有していないことの確認検査や保健所等から送付された菌株及び三類以外の感染症について試験検査を実施した。

- ・腸管出血性大腸菌 (EHEC) 検査を444検体実施し検出した血清型は，0157:25株，0111:1株，O血清型不明：1株の計27株であった（実数）。
- ・赤痢菌は3検体の試験検査を実施したが検出されなかった。
- ・結核患者管理健診・接触者健康診断で採取された14検体の喀痰について結核菌検査を行ったが，塗抹・培養検査とも陰性であった。
- ・レジオネラ属菌検査を3検体の喀痰で実施し2検体から *Legionella pneumophilla* SG1 を分離した。
- ・サルモネラ属菌は12検体の検査を実施し12検体から *S. Chester* を分離した。
- ・バンコマイシン耐性腸球菌は3検体から *vanA* 遺伝子を検出した。
- ・ライム病ボレリア2検体，ブルセラ属菌1検体の遺伝子検査・血清抗体価検査，侵襲性肺炎球菌3検体の血清型別検査を国立感染症研究所に依頼した。

イ 細菌の分子疫学検査

感染症の集団発生時や広域事例の探知において，感染経路の特定，共通の感染源解明のために分子疫学検査を行った。

- ・結核菌68株についてはVNTR法を用いて解析し，*S. Chester*12株，バンコマイシン耐性腸球菌3株についてはPFGE法による分子疫学解析を行った。
- ・腸管出血性大腸菌0157の29株についてPFGE法・IS-printing法・MLVA法を行った。また，腸管出血性大腸菌091の2株についてはPFGE法による分子疫学解析を行った。

ウ 細菌感染症検査に係る外部精度管理

次の外部精度管理に参加し（全て正しく判定でき）結果は良好であった。

- ・平成28年度レジオネラ属菌検査外部精度管理
- ・結核菌遺伝子型別外部精度管理

(2) 食品衛生関連事業

ア 食中毒検査

食中毒事例（疑い含む）が93事例発生し，原因物質究明のための細菌検査を行った。搬入された便415検体，ふきとり247検体，食材101検体，計763検体について主に食中毒細菌11項目の検査を行った。寄生虫の試験検査については顕微鏡検査・遺伝子検査等を行った。

その結果、サルモネラ属菌2株、カンピロバクター属菌50株（うち食材等4株）、ウエルシュ菌13株、セレウス菌12菌（便7株、ふきとり3株、食材1株、吐物1株）黄色ブドウ球菌7株を検出した。食材1検体から*Sarcocystis*属を検出した。また、アニサキス虫体を3検体同定した。

イ 食品衛生法に基づく収去食品検査

茨城県食品衛生監視指導計画に基づき、保健所が行う監視指導に伴い搬入された収去食品等の試験検査を行った。

(ア) 食肉の試験検査

カンピロバクター属菌、サルモネラ属菌、腸管出血性大腸菌（026, 0103, 0111, 0121, 0145及び0157）及び腸内細菌科菌群により汚染された食肉及びその加工品等による食中毒を防止するため食肉120検体の試験検査を行った。

その結果、カンピロバクター属菌が10株、サルモネラ属菌が23株検出された。

(イ) 農産物漬物の試験検査

県内に流通する農産物漬物（原則として浅漬）の安全性を確保するため、漬物25検体について大腸菌、腸炎ビブリオの試験検査を行い、大腸菌が1株検出された。

(ウ) 生食用鮮魚介類の試験検査

腸炎ビブリオにより汚染された生食用鮮魚介類による食中毒を防止するため生食用鮮魚介類24検体について試験検査を行い腸炎ビブリオは陰性であった。

(エ) 輸入食品の試験検査

県内に流通する輸入食品の安全を確保するため輸入食品111検体について、一般細菌数53検体、*E. coli* 45検体、大腸菌群40検体、黄色ブドウ球菌12検体、サルモネラ属菌9検体、クロストリジウム属菌数6検体、緑膿菌10検体、腸球菌10検体、大腸菌群数17検体、芽胞数3検体、恒温試験3検体、細菌試験3検体の試験検査を行った。芽胞数検査において食肉製品用の香辛料1件が不適合となった。

(オ) 夏期一斉取締りに伴う収去検査

夏期に多発する食中毒等の食品による事故の防止を図るため、収去食品150検体（弁当そうざい145検体、洋生菓子5検体）の試験検査を実施した。検査は一般細菌数、大腸菌、大腸菌群、黄色ブドウ球菌について行った。その結果、一般細菌数検査で1検体が基準値を上回り、大腸菌群3検体、黄色ブドウ球菌1検体、大腸菌2検体が陽性となった。

(カ) 年末一斉取締りに伴う収去検査

食品流通量が増加する年末及び食中毒患者が最も発生する冬期における食中毒の発生防止を図るため、収去食品等140検体を検査した。収去食品等の内訳は、弁当及びそうざい88検体、洋生菓子50検体、漬物（浅漬）2検体、それぞれの食品に対応する検査項目を実施した結果、洋生菓子4検体について大腸菌群が陽性となった。

(キ) 認定小規模食鳥処理場衛生状況調査

認定小規模食鳥処理場の衛生状況を把握するため、県内20施設において採取した拭き取り等137検体についてサルモネラ属菌、カンピロバクター属菌の定性試験を行った。その結果、カンピロバクター属菌が20検体から、また、サルモネラ属菌が2検体から検出された。

(ク) 県内産ヒラメの寄生虫（クドア）汚染状況調査

県内産ヒラメに寄生したクドア・セプトエンピクタータを原因とする食中毒を防止するために実施した。県内産ヒラメ（漁獲水域が県内沖のもの）20尾を検査し、クドア・セプトエンピクタータは検出されなかった。

(ケ) 食品衛生外部精度管理調査

一般財団法人食品薬品安全センター秦野研究所の平成28年度食品衛生外部精度管理調査に参加し一般細菌数測定検査，大腸菌群検査，腸内細菌科菌群検査，黄色ブドウ球菌検査，サルモネラ属菌検査を実施した。その結果は，（全て正しく判定でき）良好であった。

(3) 水道水質調査事業

病原性微生物等実態調査実施要領に基づき，原虫（クリプトスポリジウム・ジアルジア）等の存在状況の実態を把握するため，汚染が疑われる県内5カ所の5浄水場について原水及び浄水の検査を行った。その結果，大腸菌を1浄水場から検出し，クリプトスポリジウム，ジアルジア，嫌気性芽胞菌は不検出で，残留塩素と浄水濁度は基準内（原水濁度は基準なし）であった。

詳細については，表2のとおりである。

(4) 環境衛生に係る試験検査

レジオネラ症の患者発生時において入浴施設の関連が疑われる場合に，当該施設の浴槽水等のレジオネラ属菌の試験検査を行った。9施設の浴槽水等46検体中，培養法で5検体からレジオネラ属菌が分離された。

(5) 医療機器一斉監視指導に係る試験検査

医療機器の品質を確保するため，注射針2検体について無菌検査を行い，2検体とも陰性であった。

表1 平成28年度 試験検査実施状況

項目		検体数	検出病原体等 ()は検出数	
感染症 発生動向 調査事業 関連	腸管出血性大腸菌	444	O157(25) O111(1) O血清型不明(1)	
	赤痢菌	3		
	結核菌	14		
	レジオネラ属菌	3	<i>L. pneumophilla</i> SG1(2)	
	サルモネラ属菌	12	<i>S. Chester</i> (12)	
	バンコマイシン耐性腸球菌	3	vanA(3)	
	侵襲性肺炎球菌	3	血清型 12F(2) 7F(1)	
	ライム病ボレリア	2		
	ブルセラ属菌	1		
	分子疫学 検査	結核菌	68	
腸管出血性大腸菌 O157		29		
サルモネラ属菌		12	<i>S. Chester</i> (12)	
バンコマイシン耐性腸球菌		3		
腸管出血性大腸菌 O91		2		
食品衛生 事業関連	食中毒(疑い含む)検査	763	カンピロバクター属菌(50) ウエルシュ菌(13) セレウス菌(12) 黄色ブドウ球菌(7) アニサキス(3) サルモネラ属菌(2) <i>Sarcocystis</i> 属(1)	
	食肉の試験検査	120	サルモネラ属菌(23) カンピロバクター属菌(10) 大腸菌(1)	
	農産物漬物の試験検査	25		
	生食用鮮魚介類の試験検査	24		
	輸入食品の試験検査	111	芽胞数(1)	
	夏期一斉取締りに伴う収去 検査	150	大腸菌群(3) 大腸菌(2) 黄色ブドウ球菌(1) 一般細菌数(1)	
	年末一斉取締りに伴う 収去検査	140	大腸菌群(4)	
	認定小規模食鳥処理場衛生 状況調査	137	カンピロバクター属菌(20) サルモネラ属菌(2)	
	県内産ヒラメの寄生虫(クド ア)汚染状況調査	20		
	食品衛生外部精度管理調査	9		
	その他	水道水質調査(原水・浄水)	10	大腸菌(1)
		環境衛生関連(浴槽水等)	46	レジオネラ属菌(5)
		医療機器無菌検査	2	
	合計	2,156		

表2 病原性微生物等実態調査一覧

検査項目	件 数		計
	水道原水	浄水	
気温	5	5	10
水温	5	5	10
pH	5	5	10
濁度	5	5	10
残留塩素濃度	-	5	5
大腸菌	5	-	5
嫌気性芽胞菌	5	-	5
クリプトスポリジウム	5	5	10
ジアルジア	5	5	10
合 計	40	35	75

調査地点	上岡浄水場	太子町
	頃藤浄水場	太子町
	西金浄水場	太子町
	芦野倉浄水場	太子町
	石寺浄水場	笠間市

2 調査研究

VNTR法を用いた結核菌分子疫学解析によるデータベース作成のための調査研究
結核菌の分子疫学解析の一つであるVNTR法を用いて保健所から搬入された結核菌の遺伝子情報を解析し、菌の疫学情報や伝播状況などの近縁関係を調査する。

平成25年度から平成27年度までの3年間、「VNTR法を用いた結核菌分子疫学分類確立のための調査研究」を実施し24領域VNTR法の有用性を確認した。

平成28年度は、24領域VNTR法を用いた解析を実施し伝搬経路の推定及び県内流行の傾向把握のため、結核菌68株を解析し疫学情報と併せてデータベースの作成・蓄積を実施した。

3. ウイルス部

1 試験検査の概況

(1) 感染症発生動向調査事業等

平成28年度感染症発生動向調査事業に係る検査件数を表1に示した。

表1 平成28年度 感染症発生動向調査事業に係る検査件数

感染症の類型	臨床診断名	検体数 (人)	検出病原体名	ウイルス検出件数		
				遺伝子 検査	分離 培養	
四類感染症 (全数届出疾患)	E型肝炎	6	E型肝炎ウイルス 3型	4	—	
	A型肝炎	1	A型肝炎ウイルス 1A型	1	—	
	つつが虫病	4	<i>Orientia tsutsugamushi</i> Karp型	1	—	
	チクングニア	16	チクングニアウイルス	1	—	
	熱・デング熱			デングウイルス 2型	1	—
				デングウイルス 3型	2	—
				デングウイルス 4型	1	—
			コクサッキーウイルス B3型	1	—	
5類感染症 (全数届出疾患)	急性脳炎・脳症	69	コクサッキーウイルス A4型	1	—	
			コクサッキーウイルス B3型	1	—	
			コクサッキーウイルス B5型	1	—	
			エコーウイルス 6型	1	—	
			エコーウイルス 18型	1	—	
			エンテロウイルス属 (型別不能)	2	—	
			単純ヘルペスウイルス 1型	1	—	
			単純ヘルペスウイルス 2型	1	—	
			水痘・帯状疱疹ウイルス	1	—	
			EBウイルス	1	—	
			ヒトヘルペスウイルス 6型	10	—	
			ヒトヘルペスウイルス 7型	2	—	
			アデノウイルス	2	—	
			インフルエンザウイルス AH1pdm09	2	—	
			インフルエンザウイルス AH3	5	—	
			インフルエンザウイルス B (Victoria 系統)	1	—	
			RSウイルス	3	—	
			RSウイルス A	1	—	
			ライノウイルス	1	—	
			パラインフルエンザウイルス 2型	1	—	
ノロウイルス GII	4	—				

感染症の類型	臨床診断名	検体数 (人)	検出病原体名	ウイルス検出件数	
				遺伝子 検査	分離 培養
			A 群ロタウイルス	1	—
	風しん	7	パルボウイルス B19	1	—
			ヒトヘルペスウイルス 6 型	1	—
			エコーウイルス 9 型	1	—
	麻疹	24	麻疹ウイルス H1 型	1	1
			EB ウイルス	1	—
			ヒトヘルペスウイルス 6 型	6	—
			パルボウイルス B19	1	—
			エコーウイルス 18 型	1	—
			エンテロウイルス属(型別不能)	1	—
5 類感染症 (定点把握疾患)	感染性胃腸炎	6	A 群ロタウイルス	2	—
	手足口病	3	コクサッキーウイルス A6 型	1	0
			コクサッキーウイルス B3 型	1	1
			ヒトヘルペスウイルス 7 型	1	—
	流行性 耳下腺炎	4	ムンプスウイルス	2	0
	インフルエンザ	113	インフルエンザウイル AH1pdm09	4	4
			インフルエンザウイルス AH3	87	82
			インフルエンザウイルス B (Yamagata 系統)	7	7
			インフルエンザウイルス B (Victoria 系統)	14	13
	無菌性髄膜炎	82	コクサッキーウイルス A4 型	1	0
			コクサッキーウイルス A6 型	1	0
			コクサッキーウイルス B1 型	2	2
			コクサッキーウイルス B2 型	2	2
			コクサッキーウイルス B3 型	3	3
			コクサッキーウイルス B4 型	3	2
			コクサッキーウイルス B5 型	10	9
			エコーウイルス 6 型	4	4
			エコーウイルス 9 型	3	1
			エコーウイルス 18 型	3	0
			ヒトパレコウイルス 3 型	1	0
			ムンプスウイルス	8	1
			単純ヘルペスウイルス 2 型	1	—
			水痘・帯状疱疹ウイルス	2	—
			EB ウイルス	1	—
			ヒトコロナウイルス(OC43)	1	—
その他	その他 (呼吸器感染症等)	73	EB ウイルス	2	—
			サイトメガロウイルス	1	—
			ヒトヘルペスウイルス 6 型	1	—

感染症の類型	臨床診断名	検体数 (人)	検出病原体名	ウイルス検出件数	
				遺伝子 検査	分離 培養
			アデノウイルス	4	—
			コクサッキーウイルス A10 型	1	—
			コクサッキーウイルス B5 型	1	—
			エコーウイルス 6 型	2	—
			ヒトパレコウイルス(型別不明)	1	—
			RS ウイルス	11	—
			ヒトライノウイルス	19	—
			ヒトボカウイルス	3	—
			インフルエンザウイルス B	1	—
			パラインフルエンザウイルス 1 型	2	—
			パラインフルエンザウイルス 2 型	1	—
			パラインフルエンザウイルス 3 型	2	—
			ヒトメタニューモウイルス	5	—
			ヒトコロナウイルス(NL63)	1	—
			ヒトコロナウイルス(OC43)	1	—
合計(人)		408		294	132
集団感染事例	インフルエンザ	106	AH1pdm09	12	2
			AH3	69	34
			B(山形系統)	4	4
			B(ビクトリア系統)	8	6
感染性胃腸炎	565	ノロウイルス(GI)	1	—	
		ノロウイルス(GII)	472	—	
		サボウイルス	35	—	
		A 群ロタウイルス	18	—	
		アデノウイルス	3	—	
呼吸器感染症	44	ライノウイルス	9	—	
		ヒトメタニューモウイルス	23	—	
		ヒトコロナウイルス(NL63)	7	—	
食中毒・ 有症苦情	下痢症ウイルス	417	ノロウイルス(GI)	4	—
			ノロウイルス(GII)	138	—
			アデノウイルス	1	—
合計(人)		1,132		804	46

ア インフルエンザ

病原体定点医療機関から提出のあった113検体, 集団発生106検体の合計219検体について遺伝子検査及び分離培養・同定検査を実施した。その結果, AH1pdm09が16件, AH3が156件, B (Yamagata系統) 11株, B (Victoria系統) 22件が検出された。

イ 感染性胃腸炎

病原体定点医療機関から提出のあった6検体, 下痢症ウイルスによる集団感染等が疑われた128事例565検体, 合計571検体について, ノロウイルス, サポウイルス, A群・C群ロタウイルス, アデノウイルス, アストロウイルスの遺伝子検査を実施した。その結果, ノロウイルスが473件 (GI: 1件, GII: 472件), サポウイルス35件, A群ロタウイルス20件, アデノウイルス3件が検出された。

ウ デング熱・チクングニア熱・ジカ熱

海外で感染したと思われる16名の検査を実施したところ, デングウイルス2型が1件, デングウイルス3型が2件, デングウイルス4型が1件, チクングニアウイルスが1件, コクサッキーウイルスB3型 (CB3) が1件検出された。

エ 麻しん・風しん

麻しん及び風しん疑い患者31名の遺伝子検査及び分離培養検査を行ったところ, 麻しんウイルスH1型が1件検出された。麻しん及び風しんウイルスが検出されなかった検体について, 他ウイルスの検索を行った結果, ヒトパルボウイルスB19が1件, エンテロウイルス属3件 (エコーウイルス9型: 1件, エコーウイルス18型: 1件, 型別不明: 1件), EBウイルスが1件, ヒトヘルペスウイルス6型 (HHV6) が7件検出された。

オ 急性脳炎

急性脳炎・脳症 (疑い例を含む) の患者69名の血清, 髄液, 咽頭ぬぐい液, 糞便等を用いて, 遺伝子検査を実施した。その結果, HHV6が10件, HHV7が2件, 単純ヘルペスウイルス2件 (1型: 1件, 2型: 1件), EBウイルス1件, 水痘・帯状疱疹ウイルス1件, エンテロウイルス属7件, アデノウイルス2件, インフルエンザウイルス8件 (AH1pdm09: 2件, AH3: 5件, B (Victoria系統): 1件), RSウイルス4件, ライノウイルス1件, パラインフルエンザウイルス2型が1件, ノロウイルスGIIが4件, A群ロタウイルス1件が検出された。

カ A型肝炎・E型肝炎

A型肝炎患者1名からA型肝炎ウイルス1A型が検出された。

E型肝炎患者6名からE型肝炎ウイルス3型が4件検出された。

キ 無菌性髄膜炎・手足口病

無菌性髄膜炎82名分, 手足口病3名分の検体について遺伝子検査, 分離培養・同定検査を実施した。無菌性髄膜炎からエンテロウイルス属32件, ムンプスウイルス8件, 水痘・帯状疱疹ウイルス2件, 単純ヘルペスウイルス1件, EBウイルス1件, ヒトパレコウイルス1件, ヒトコロナウイルス1件が検出された。手足口病では, エンテロウイルス属2件, ヒトヘルペスウイルス1件が検出された。

ク 呼吸器感染症 (集団発生事例)

6施設44検体の検体の提出があり, 原因追究に貢献した (表2)。

表2 平成28年度 呼吸器感染症集団発生事例病原体検出状況

検体採取日	保健所名	施設種類	検出病原体名
6月24日	土浦	老人保健施設	ライノウイルス
7月14日	土浦	医療機関	ヒトメタニューモウイルス
7月21日	竜ヶ崎	障害者施設	ライノウイルス
8月4日	土浦	医療機関	ヒトメタニューモウイルス
8月5日	つくば	老人保健施設	ヒトメタニューモウイルス
2月17日	土浦	老人保健施設	コロナウイルス

(2) 性感染症対策に関する試験検査

水戸及び土浦保健所で実施しているエイズスクリーニング検査（簡易迅速法）について、職員を派遣し検査を実施した（表3）。

表3 エイズスクリーニング検査実施状況

	水戸保健所	土浦保健所	合計
検査数	309	374	683
陽性・判定保留	3	5	8
陰性	306	369	675

(3) 食品衛生対策に関する試験検査

ア 有症者及び従業員等の検査

食中毒（疑い例、有症苦情等を含む）82事例417検体について、ノロウイルス、サポウイルス、A群・C群ロタウイルス、アデノウイルス、アストロウイルスの遺伝子検査を実施した。その結果、ノロウイルス142件（GI：4件、GII：138件）、アデノウイルス1件が検出された。

イ 食品検査・ふき取り検査

食中毒の原因食品として疑われた食品4検体、食材（生牡蠣等）、とふき取り63検体について、ノロウイルスの遺伝子検査を実施した。その結果、4件検出された。

ウ 二枚貝のノロウイルス検査

茨城県産の二枚貝（岩ガキ、ハマグリ、ホッキ貝）30検体（1検体10個）のノロウイルスの遺伝子検査を実施したところ、すべて不検出（検出限界以下）であった。

(4) 職員の健康管理事業に関する検査

茨城県の「保健所及び衛生研究所に勤務する職員のB型肝炎検査及びワクチン接種実施要領」に基づき、保健所等職員103名について、B型肝炎の血清学的検査（HBs抗原検査98検体、HBs抗体検査103検体）を実施した。

2 調査研究

(1) 感染症発生動向調査

ア 日本脳炎感染源調査

ブタが日本脳炎ウイルスの増幅動物になっていることから、ブタ血清中の日本脳炎ウイルスに対する抗体価を測定することでその侵淫度を調査し、日本脳炎の流行を把握するために実施した。

平成28年7月から9月にかけて、(株)茨城県中央食肉公社に集荷された生後6カ月の県内産のブタから8回、1回あたり10頭を採血した、合計80検体について、血清中の日本脳炎ウイルスに対する赤血球凝集抑制抗体(HI抗体)価を測定した。また、HI抗体価が1:40以上になった血清については、新鮮感染抗体測定のため2-ME感受性抗体を測定した。

その結果は、表4のとおりである。

表4 平成28年度 と畜場搬入豚の日本脳炎ウイルスに対する抗体保有状況

検体採取日	検査頭数	H I 抗体価								HI 抗体陽性		2ME 感受性※			養豚場所
		<10	10	20	40	80	160	320	≥640	頭数	%	検査数	陽性数	%	
7月11日	10	10								0	0				小美玉市
7月25日	10	10								0	0				土浦市
8月8日	10	10								0	0				土浦市
8月22日	10	6				3		1		4	40	4	4	100	土浦市
8月29日	10	10								0	0				小美玉市
9月5日	10	10								0	0				小美玉市
9月12日	10	8						1	1	2	20	2	2	100	堺町
9月26日	10	1		1				2	5	1	90	8	0	0	土浦市
計	80	65		1		3		2	7	2	15		14	6	

※ 2-ME感受性抗体は、HI抗体価1：40以上であった検体について検査した。

2-ME処理を行った血清のHI抗体価が未処理の血清（対照）と比較して、8倍（3管）以上低かった場合を陽性（+）、4倍（2管）低かった場合を偽陽性（±）、不変または2倍（1管）低かった場合を陰性（-）と判定した。

なお、対照のHI抗体価は1：40で、2-ME処理を行った血清が1：10未満であった場合は陽性と判定した。

イ インフルエンザ感受性調査

インフルエンザウイルスに対する血清中の抗体を測定することでヒトの免疫状況を把握し、次シーズンの流行予測に役立てるために実施した。

平成28年7月から10月に各年齢群ごとに採血した217名の血清について、赤血球凝集抑制抗体（HI抗体）検査を実施した。

使用したHA抗原は、次の4種である。

- ・A/California/7/2009 (H1N1) pdm09
- ・A/HongKong/4801/2014 (H3N2)
- ・B/Phuket/3074/2013 (Yamagata系統)
- ・B/Texas/2/2013 (Victoria系統)

各抗原に対する各年齢区分の抗体保有者数等の結果を表5に示した。なお、感染防御の目安とされるHI抗体価1：40以上を抗体保有者として、抗体保有率を算出した。

表5 年齢区分別インフルエンザ抗体保有状況

年齢区分 (歳)	人数 (人)	抗体保有人数(保有率)			
		A/California/7/2009 (H1N1)pdm09	A/HongKong/4801/ 2014(H3N2)	B/Yamagata/3073 (Yamagata 系統)	B/Texas/2/2013 (Victoria 系統)
0～4	36	13 (36.1%)	6 (16.7%)	1 (2.8%)	1 (2.8%)
5～9	19	13 (68.4%)	9 (47.4%)	1 (5.3%)	0 (0.0%)
10～14	20	12 (60.0%)	12 (60.0%)	3 (15.0%)	3 (15.0%)
15～19	20	16 (80.0%)	8 (40.0%)	4 (20.0%)	1 (5.0%)
20～29	35	28 (80.0%)	11 (31.4%)	16 (45.7%)	6 (17.1%)
30～39	21	12 (57.1%)	8 (38.1%)	4 (19.0%)	1 (4.8%)
40～49	25	10 (40.0%)	3 (12.0%)	4 (16.0%)	4 (16.0%)
50～59	21	7 (33.3%)	4 (19.0%)	3 (14.3%)	0 (0.0%)
60～	20	8 (40.0%)	7 (35.0%)	3 (15.0%)	2 (10.0%)
合計	217	119 (54.8%)	68 (31.3%)	39(18.0%)	18 (8.3%)

ウ 麻しん風しん感受性調査

麻しんウイルス及び風しんウイルスに対するヒト血清中の抗体保有状況を調査し、麻しん及び風しんワクチン接種効果を調査するとともに、今後の流行予測を予測することを目的として実施した。

平成28年7月から10月にかけて各年齢群に採取された血清について、「セロディア・麻しん」（富士レビオ）を用い麻しんPA抗体価及び赤血球凝集抑制抗体（HI抗体）検査で風しん抗体価を測定した。

麻しんPA抗体価の結果を表6に、風しんHI抗体価の結果を表7に示した。

表6 年齢区分別麻しん PA 抗体保有状況

年齢区分 (歳)	P A 抗体価										合計 (人)	
	<16	16	32	64	128	256	512	1024	2048	4096		8192 \leq
0~1	9			2	4		1	1	1			18
2~3					1		2	5	3	1	1	13
4~9		1		1	1	4	9	2	4	2		24
10~14			2	2	4	4	3	4		1		20
15~19			1		3	4	1	7	2	1	1	20
20~24				1		3	7	3	3	2		19
25~29			1	1	1	2	8		2	1		16
30~39					2	3	7	3	1	3	2	21
40~			1		1	11	19	16	9	7	2	66
合計	9	1	5	7	17	31	57	41	25	18	6	217

表7 年齢区分別風しん HI 抗体保有状況

年齢区分 (歳)	H I 抗体価									合計 (人)	
	<8	8	16	32	64	128	256	512	1024 \leq		
0~1	11	1		1	1	2	2				18
2~3		1	1	4	3	3	1				13
4~9			3	7	9	3	1	1			24
10~14		1	2	11	5		1				20
15~19		1	1	9	6	2	1				20
20~24			1	8	8	2					19
25~29			1	3	8	2	1	1			16
30~39	1		1	4	7	6	2				21
40~	7	3	1	15	12	18	8	1	1		66
合計	19	7	11	62	59	38	17	3	1		217

(2) イノシシのE型肝炎ウイルス保有状況調査

県内の野生イノシシが保有するE型肝炎ウイルスの実態を明らかにするとともに、イノシシ肉を安全に取扱う（解体，喫食等）ための県民への注意喚起の基礎データを得ることを目的として実施した。実施状況を表8に示した。

表8 県内における野生イノシシのE型肝炎ウイルス保有状況

市名	遺 伝 子 検 査			抗 体 検 査		
	検体数 (頭)	陽性数 (頭)	陽性率 (%)	検体数 (頭)	陽性数 (頭)	陽性率 (%)
A市	12	0	0	10	7	58.3
B市	10	2	20.0	12	2	20.0
C市	35	0	0	35	14	40.0
合計	57	2	3.5	57	23	40.0

4. 理化学部

1 食品試験検査の概況

平成28年度食品試験検査実施状況は、表1のとおりである。

表1 平成28年度食品検査実施状況

項目	検体数	項目数	件数
(1) 輸入加工食品残留農薬試験検査（有機リン系農薬）	50	42	2,100
(2) 遺伝子組換え食品試験検査	10	1	10
(3) 県外産農産物残留農薬試験検査	20	107～135	2,448
(4) 輸入野菜残留農薬試験検査	50	100～133	5,726
(5) 加工食品中アレルギー物質試験検査	48	各1	48
(6) 漬物の添加物試験検査	25	1	25
(7) 輸入食品試験検査			
ア 柑橘類の残留農薬	25	11	275
イ 乾燥果実・煮豆、ワイン、菓子の食品添加物	85	各1	85
ウ 農産物漬物原材料の食品添加物	25	1	25
エ 食品等輸入者取扱い食品検査			
ソルビン酸	12	1	12
指定外酸化防止剤（TBHQ）	12	1	12
(8) 加工食品放射性物質試験検査	96	2	192
(9) イノシン肉の放射性物質試験検査	16	2	32
(10) 食中毒・苦情食品・違反食品等の行政検査	7	1～11	25
合計	481		11,015

(1) 輸入加工食品残留農薬試験検査（有機リン系農薬）

平成28年度茨城県食品衛生監視指導計画及び平成28年度輸入加工食品の残留農薬試験検査実施要領に沿って、輸入加工食品50検体について42項目の有機リン系農薬の検査を実施した結果、全て不検出であった。

[測定項目]

E P N, クロロピリホス, シアノホス, ジクロロボス, ダイアジノン, チオメトン, フェニトロチオン, ブタミホス, マラチオン, メタミドホス, 他32成分

(2) 遺伝子組換え食品試験検査

平成28年度茨城県食品衛生監視指導計画及び平成28年度遺伝子組換え食品の試験検査実施要領に沿って、大豆10検体（ラウンドアップレディ大豆）について遺伝子組換え体の含有検査を実施した結果、全て検出下限値（0.3%）未満であった。

(3) 県外産農産物残留農薬試験検査

平成28年度茨城県食品衛生監視指導計画及び平成28年度県外産農産物の試験検査実施要領に沿って、県外で生産された野菜20検体（ダイコン5検体，ニンジン4検体，キャベツ5検体，レタス2検体，キュウリ2検体，トマト2検体）について農薬107～135項目の検査を実施した。結果は，以下のとおり農薬成分が検出された検体もあったが，全て基準値以下であった。

- ・レタス2検体からチアメトキサムが検出された。
- ・キュウリ1検体からホスチアゼート及びチアメトキサムが検出された。
- ・トマトの1検体からクロルフェナピル，他1検体からブプロフェジンが検出された。
- ・キャベツ1検体からトルクロホスメチルが検出された。
- ・ニンジン1検体からチアベンダゾールが検出された。

[測定項目]

アザコナゾール，イサゾホス，イソカルボホス，イソプロチオラン，ウニコナゾールP，エチオン，エトリムホス，クレソキシムメチル，クロルタールジメチル，クロルピリホス，クロルピリホスメチル，クロルフェンソン，クロルフェンビンホス，シアナジン，シアノフェンホス，他

(4) 輸入野菜残留農薬試験検査

平成28年度茨城県食品衛生監視指導計画及び平成28年度輸入野菜の試験検査実施要領に沿って，輸入野菜を2回に分けて，各25検体，計50検体について農薬100～133項目の検査を実施した。

検査を行った野菜は，第1回は，ブロッコリー8検体，トマト4検体，パプリカ3検体，未成熟インゲン，たけのこ各2検体，アスパラガス，ニンジン，ほうれん草，さといも，ダイコン，カリフラワー各1検体，第2回は，パプリカ，さといもが各4検体，かぼちゃ，ブロッコリーが各3検体，未成熟インゲン，アスパラガス，ほうれん草，カリフラワー，たけのこ各2検体，レタス1検体である。

結果は，以下のとおり農薬成分が検出された検体もあったが，全て基準値以下であった。

(第1回の結果)

- ・パプリカ1検体からクロチアニジン，チアメトキサムが検出された。
- ・未成熟インゲン1検体からクロルピリホスが検出された。
- ・たけのこ1検体からフェニトロチオンが検出された。
- ・にんじん1検体からトリフルラリン，ホスメットが検出された。
- ・トマト1検体からミクロブタニルが検出された。
- ・ブロッコリー1検体からペルメトリンが検出された。

(第2回の結果)

- ・パプリカ3検体からピリダベンが検出され，うち1検体はクロルフェナピル，クロチアニジン，チアクロプリドが検出され，もう1検体はイミダクロプリドが検出された。
- ・ほうれん草2検体から，イミダクロプリドが検出され，うち1検体はクロチアニジン，もう1検体からはアゾキシストロビンが検出された。

- ・かぼちゃ2検体から、イミダクロプリドが検出され、うち1検体はミクロブタニルが検出された。
- ・さといも1検体から、チアメトキサムが検出された。

[測定項目]

アトラジン，イサゾホス，イソプロチオラン，ウニコナゾールP，エチオン，エディフェンホス，エトリムホス，クレソキシムメチル，クロルピリホス，クロルピリホスメチル，クロルフェンソン，サリチオン，シアノフェンホス，ジクロフェンチオン，ジクロブトラゾール，チオベンカルブ，他

(5) 加工食品中のアレルギー物質試験検査

平成28年度茨城県食品衛生監視指導計画及び平成28年度アレルギー物質を含む食品の試験検査実施要領に沿って、加工食品48検体について、食品衛生法上表示義務のある特定原材料（小麦20検体，そば20検体，落花生8検体）の検査を実施した結果、当該成分が検出されものはなかった。

(6) 漬物の添加物試験検査

平成28年度茨城県食品衛生監視指導計画及び平成28年度農産物漬物の試験検査実施要領に沿って、漬物25検体について食品添加物（ソルビン酸）の検査を実施した結果、全て基準値以下であった。

(7) 輸入食品試験検査

平成28年度茨城県食品衛生監視指導計画及び平成28年度輸入食品の試験検査実施要領に沿って輸入食品の検査を実施した。

ア 柑橘類の残留農薬

柑橘類25検体（グレープフルーツ10，オレンジ8，レモン7）について有機リン系農薬11項目の検査を実施した。結果は、以下のとおり農薬成分が検出された検体もあったが、全て基準値以下であった。

- ・グレープフルーツの3検体からクロルピリホスが検出された。
- ・オレンジの5検体からクロルピリホスが検出された。
- ・レモンの3検体からクロルピリホスが検出された。

[測定項目]

エトリムホス，キナルホス，クロルピリホス，トルクロホスメチル，パラチオンメチル，ピラクロホス，フェニトロチオン，プロチオホス，マラチオン，ピリミホスメチル，クロルフェンビンホス

イ 乾燥果実・煮豆，ワイン，菓子の食品添加物

輸入食品35検体（乾燥果実10，煮豆3，ワイン22）について二酸化硫黄（亜硫酸塩）の検査を実施した結果、全て基準値以下であった。

輸入食品50検体（菓子50）について、TBHQ*の検査を行った結果、全て不検出であった。

※ TBHQ：tert-ブチルヒドロキノン（指定外酸化防止剤）

ウ 農産物漬物原材料の食品添加物

輸入農産物漬物原材料（漬物を含む。）25検体についてソルビン酸の検査を実施した結果、全て基準値以下であった。

エ 食品等輸入者取扱食品の食品添加物

輸入食品12検体（ワイン9，漬物3）についてソルビン酸の検査を実施した結果、全て基準値以下であった。

輸入食品12検体（菓子12）について、TBHQの検査を行った結果、全て不検出であった。

(8) 加工食品の放射性物質試験検査

平成28年度茨城県食品衛生監視指導計画に沿って、県内事業者が製造した以下の加工食品96検体（飲用水2，牛乳5，乳児用食品2，一般食品87）について放射性物質（セシウム134及びセシウム137）の検査を実施した結果、一般食品2検体からセシウム137が検出されたが基準値以下であった。

(9) イノシシ肉の放射性物質試験検査

平成28年度イノシシ肉の放射性物質検査実施要領に沿って、県の「出荷・検査方針」に基づき捕獲・処理されたイノシシの肉16検体について放射性物質（セシウム134及びセシウム137）の検査を実施した結果、9検体からセシウム137，6検体からセシウム134及びセシウム137が検出されたが基準値以下であった。

(10) 食中毒・苦情・違反食品等の行政検査

保健所等に有症苦情や苦情の届け出のあった食品7検体について、以下のとおり原因究明のための検査を実施した。

- ・菓子1検体及び冷凍野菜1検体について、毒劇物（ヒ素イオン，シアン化物イオン，硝酸イオン，亜硝酸イオン，コリンエステラーゼ阻害剤）の検査を実施したところ、全て不検出であった。
- ・魚加工品3検体について、ヒスタミンの検査を実施したところ、2検体から検出され（2.3mg/100g，2.2mg/100g），1検体は不検出であった。
- ・冷凍魚加工品1検体について、ヒスタミンの検査を実施したところ、4.5mg/100g検出された。
- ・柑橘類1種類について、有機リン系農薬11項目の検査を実施したところ、全て不検出であった。

(11) 外部精度管理

財団法人食品薬品安全センター秦野研究所が行う平成28年度食品衛生外部精度管理調査に参加し、食品添加物検査（シロップ中の安息香酸の定量），残留農薬検査（にんじんペースト中のクロルピリホス及びフェニトロチオンの定量）を実施したところ、結果は全て良好であった。

2 医薬品等試験検査の概況

平成28年度医薬品等試験検査実施状況は表2のとおりである。

表2 平成28年度医薬品等試験検査実施結果

項目	検体数	項目数	件数
(1) 県内流通医薬品等試験検査	50	1	50
(2) 医薬品等一斉監視指導に係る試験検査	10	1	10
(3) 医療機器一斉監視指導に係る試験検査	2	1	2
(4) 家庭用品試買試験検査			
メタノール, テトラクロエチレン, トリクロエチレン	9	3	27
アゾ化合物	9	24	216
ホルムアルデヒド	132	1	132
(5) 無承認無許可医薬品試験検査			
ダイエット食品	25	8	200
強壮食品	25	7	175
(6) 危険ドラッグ買上検査	10	629	6,290
合計	272		7,102

(1) 県内流通医薬品等試験検査

平成28年度県内流通医薬品等試験検査実施要領に沿って、以下の医薬品等50検体について定量試験を実施した。結果は、すべて適合であった。

日本薬局方医薬品

エナラプリルマレイン酸塩錠	14検体
ピタバスタチンカルシウム錠	18検体
フェキソフェナジン塩酸塩錠	14検体
薬局製剤(アセトアミノフェン含有製剤)	4検体

(2) 医薬品等一斉監視指導に係る試験検査

平成28年度茨城県医薬品等一斉監視指導実施要領（第3後発医薬品品質確保対策）に沿って、ナテグリニド錠10検体について溶出試験を実施した。結果は、全て適合であった。

(3) 医療機器一斉監視指導に係る試験検査

平成28年度医療機器一斉監視指導実施要領に沿って、滅菌済み縫合糸2検体について溶出色素試験を実施した。結果は、適合であった。

(4) 家庭用品試買試験検査

平成28年度家庭用品試買試験検査実施要領に沿って実施した。

- ・家庭用エアゾル製品9検体について、メタノール、テトラクロエチレン及びトリクロエチレンの試験を実施した結果、全て基準値以下であった。

- ・繊維製品、つけまつげ用接着剤等132検体について、ホルムアルデヒドの試験を実施した結果、全て基準値以下であった。
- ・繊維製品 9 検体について、アゾ化合物24項目の試験を実施した結果、全て不検出であった。

[アゾ化合物測定項目]

4-アミノジフェニル, オルト-アニシジン, オルト-トルイジン, 4-クロロ-2-メチルアニリン, 2,4-ジアミノアニソール, 4,4'-ジアミノジフェニルエーテル, 4,4'-ジアミノジフェニルスルフィド, 4,4'-ジアミノ-3,3'-ジメチルジフェニルメタン, 2,4-ジアミノトルエン, 3,3'-ジクロロ-4,4'-ジアミノジフェニルメタン, 3,3'-ジクロロベンジジン, 2,4-ジメチルアニリン, 2,6-ジメチルアニリン, 3,3'-ジメチルベンジジン, 3,3'-ジメトキシベンジジン, 2,4,5-トリメチルアニリン, 2-ナフチルアミン, パラ-クロロアニリン, パラ-フェニルアゾアニリン, ベンジジン, 2-メチル-4-(2-トリルアゾ)アニリン, 2-メチル-5-ニトロアニリン, 4,4'-メチレンジアニリン, 2-メトキシ-5-メチルアニリン

(5) 無承認無許可医薬品試験検査

平成28年度無承認無許可医薬品対策事業実施要領に沿って、ダイエットを目的とする製品25検体及び強壯作用を目的とする製品25検体について、以下の成分の試験を実施した。結果は、全て不検出であった。

ダイエット成分：エフェドリン, ノルエフェドリン, シブトラミン, 脱N-ジメチルシブトラミン, オリスタット, フェンフルラミン, N-ニトロソフェンフルラミン, センノシド

強壯成分：シルデナフィル, バルデナフィル, チオキナピペリフィル, タダラフィル, ヒドロキシホモシルデナフィル, アミノタダラフィル, クロロプレタダラフィル

(6) 危険ドラッグ買上検査

平成28年度危険ドラッグ買上検査実施要領に沿って、指定薬物の含有が疑われる商品10検体について、指定薬物等のスクリーニング検査を実施したところ、全て不検出であった。

[スクリーニング項目]

1,2-Butanediol, 1,3-Butanediol, GHB artifact, 1,4-Butanediol, Trimethadione, Methomyl artifact, Metolone, Phenethylamine, Valproic acid, N-Desmethylnmethiopropamine, Amphetamine, 2-Fluoroamphetamine, 3-Fluoroamphetamine, 他616成分

3 飲用水水質検査の概況

(1) 水道水中の放射性物質モニタリング

平成28年11月9日付け茨城県保健福祉部生活衛生課水道整備グループ事務連絡「平成28年度水道水中の放射性物質のモニタリングについて」に基づき、水道水222検体の放射

性物質（セシウム134及びセシウム137）の検査を実施した結果、全て不検出であった。
実施状況は、表3のとおりである。

表3 平成28年度水道水放射性物質モニタリング（H28.4～H29.3）実施結果

採水地点	水 源	検体数	項目数	件 数
日立市 森山浄水場（水道水・原水）	久慈川	22	2	44
日立市 十王浄水場（水道水・原水）	十王川	22	2	44
北茨城市 中郷浄水場（水道水・原水）	大北川	22	2	44
県南水道事業団				
龍ヶ崎市 若柴配水場（水道水）	西浦	12	2	24
取手市 戸頭配水場（水道水）	利根川	12	2	24
取手市 藤代配水場（水道水）	利根川	12	2	24
牛久市 牛久配水場（水道水）	利根川	12	2	24
利根町 利根配水場（水道水）	利根川	12	2	24
東海村 外宿浄水場（水道水）	久慈川	12	2	24
水戸市 楮川浄水場（水道水）	那珂川	12	2	24
鹿嶋市 鹿嶋市役所（水道水）	北浦	12	2	24
守谷市 守谷浄水場（水道水）	利根川	12	2	24
桜川市 岩瀬庁舎（水道水）	西浦	12	2	24
常陸太田市 瑞竜浄水場（原水）	地下水	12	2	24
常陸太田市 水府北部浄水場（浄水）	山田川	12	2	24
神栖市 若松緑地（水道水）	鰯川	12	2	24
合計		222		444

（2）飲用水水質試験検査

保健所からの依頼により、飲用井戸水4検体について、硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素、亜硝酸態窒素、pH、色度、濁度、臭気の検査を実施したところ、1検体にて硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素、他の1検体にて亜硝酸態窒素が基準値を超過していたが他はすべて基準を満たしていた。

（3）地下水汚染等の対応に係る試料分析

県民センターからの依頼により、24検体について、硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素、亜硝酸態窒素の検査を実施したところ、5検体が硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素の基準値を超過していたが他はすべて基準を満たしていた。